

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項（建築工事・木造工事）

項 目		特記事項	
1	カーテンウォール (メタル・P C a)	カーテンウォール工事 取付方法、性能等 地震力に対する安全性	
		設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
		設計用水平震度 (K _H) ※1.0 ・	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の 応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただ し、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試 験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが 生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する 確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定 められていない材料については、関連基標準（製造者等によ り構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とす る。
		設計用鉛直震度 (K _V) ※0.5 ・	
構造体の層間変形に対する追従性			
		層間変形角	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
		・1/100 ・1/200	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
		層間変形角 1/300 に対して、ほとんど補修の必要がなく、継続使用に耐えること。	
2	外壁 A L C パネル	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性	
		設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
		設計用水平震度 (K _H) ※1.0 ・	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の 応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただ し、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試 験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが 生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する 確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定 められていない材料については、関連基標準（製造者等によ り構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とす る。
		設計用鉛直震度 (K _V) ※0.5 ・	
構造体の層間変形に対する追従性			
		層間変形角	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
		・1/100 ・1/200	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと

(R03. 04. 30 制定)

(R04. 05. 15 改定)

項 目		特記事項				
3	外壁 押出成形セ メント板 (ECP)	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性				
		設計用震度		帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能		
		設計用水平震度 (K _H) ※1.0 ・		設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の 応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただ し、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試 験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが 生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する 確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定 められていない材料については、関連基準（製造者等によ り構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とす る。		
		設計用鉛直震度 (K _V) ※0.5 ・				
構造体の層間変形に対する追従性						
		層間変形角		帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能		
		・1/100 ・1/200		左記の層間変形角に対して、脱落しないこと		
4	特定室 等及び 避難経 路の扉 重量が ある扉	RC 壁に設置する特定室等※及び避難経路の扉 ・耐震ドア 面内変形追随性の等級(・) (建具符号:・建具表による ・) ※災害応急対策を行う拠点となる室、これらの室の機能を確保するために必要な室及び 通路等並びに危険物を貯蔵又は使用する室				
		重量がある扉 以下の設計用震度の地震力に対して、脱落が生じないものとする。なお、水平方向の地 震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用水平震度(K _H) ※1.0 設計用鉛直震度(K _V) ※0.5 (建具符号:・建具表による ・)				
5	ガラス	構造体の層間変形に対する追従性 以下の層間変形角に対して、破損、脱落が生じないよう取り付けられているものとする。 層間変形角 ・ 1/100 ・ 1/200 ・				
6	特定天 井 ◎軽量鉄骨 天井下地 (特定天 井)	範囲 ◎図示による ・ 特定天井の設計用震度及びクリアランスは以下による。 特定天井告示（平成 25 年国土交通省告示第 771 号）による特定天井の設計用震度 検証ルート（ ）				
		室名	階	設計用水平震度 (K _H)	設計用鉛直震度 (K _V)	クリアランス (mm)

項 目		特記事項								
7	特定天井以外 の在来工法による吊り天井のうち天井材の落下により著しい影響がある室のもの	・ 軽量鉄骨天 井 下 地（ 特 定 天 井） 範囲 ・ 図示 ・ 標準仕様書 14. 1. 1～14. 4. 4 に加えて、天井地下材における耐震性を考慮した補強は、以下の 1)～4) のとおりとする。 1) 野縁受けは、相互にジョイントを差し込んだうえでねじ留め。 2) 野縁や野縁受けの隣り合うジョイントの位置は、互いに 1m 以上離し、千鳥状に配置。 3) 野縁受けと吊りボルトの接合に用いるハンガーは、ねじ留め等の措置（開き止め）を講じる。 4) 野縁と野縁受けの接合に用いるクリップは、特定天井告示（平成 25 年国土交通省告示第 771 号）第 3 第 3 項に適合する天井に用いられるもの又は耐風圧クリップ相当の緊結度を「新たな特定天井の技術基準（天井と周囲の壁等との間に隙間を設けない仕様の追加）の解説（平成 28 年 7 月版）」（国土交通省国土技術政策総合研究所他）の「付録 1 クリップの接合部の衝撃試験」により確認されたものを使用する。なお、当該クリップは、JIS A 6517 によらなくてもよいものとする。								
8	システム天井	・ システム天井 ※グリッドタイプ 範囲 ・ 図示による ・ 耐震性 以下の設計用震度の地震力及び層間変形角に対して、脱落しないものとする。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用水平震度（ K_H ） ※1. 0 設計用鉛直震度（ K_V ） ※0. 5 層間変形角 ・ 1/100 ・ 1/200 ・								
9	間仕切り A L C パネル	間仕切りパネルの耐震性 地震力に対する安全性 <table><tr><th>設計用震度</th><th>帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能</th></tr><tr><td>設計用水平震度（K_H） ※1. 0 ・ 設計用鉛直震度（K_V） ※0. 5 ・</td><td>設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。</td></tr></table> 構造体の層間変形に対する追従性 <table><tr><th>層間変形角</th><th>帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能</th></tr><tr><td>・1/100 ・1/200 ・</td><td>左記の層間変形角に対して、脱落しないこと</td></tr></table>	設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能	設計用水平震度（ K_H ） ※1. 0 ・ 設計用鉛直震度（ K_V ） ※0. 5 ・	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。	層間変形角	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能	・1/100 ・1/200 ・	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能									
設計用水平震度（ K_H ） ※1. 0 ・ 設計用鉛直震度（ K_V ） ※0. 5 ・	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。									
層間変形角	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能									
・1/100 ・1/200 ・	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと									

項 目		特記事項						
10	間仕切り 押出成形セ メント板 (ECP)	間仕切りパネルの耐震性 地震力に対する安全性						
		設計用震度		帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能				
		設計用水平震度 (K _H) ※1.0 ・		設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の 応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただ し、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試 験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが 生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対 する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定 められていない材料については、関連基準（製造者等により 構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とす る。				
		設計用鉛直震度 (K _V) ※0.5 ・						
		構造体の層間変形に対する追従性						
		層間変形角		帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能				
		◎/100 ・1/200 ・		左記の層間変形角に対して、脱落しないこと				
11	フリーアクセスフロ ア	20 章 フリーアクセスフロアの特記事項による						
12	エキスパンションジョ イント金物							
		材質	階区分	建築物間 のクリアランス (mm)	変位追従量 (mm)	耐火 性能	断熱 性能	備考
		◎アルミニウム製 ・ ステンレス製	()階 ～ () 階	◎50 ・ 100 ・ 150 ・	(避難経路の床等) ・ 以上 (その他) ・	・ 有り () ・ 無し	・ 有り () ・ 無し	
		・ アルミニウム製 ・ ステンレス製	()階 ～ () 階	・ 50 ・ 100 ・ 150 ・	(避難経路の床等) ・ 以上 (その他) ・	・ 有り () ・ 無し	・ 有り () ・ 無し	
		外部に設置するものは、防水型とする。 エキスパンションジョイントカバーには、脱落防止装置を講ずる。						
13	壁等に固定する家具	固定方法 ・壁固定(図示) ・床固定(図示)						
		以下の設計用震度の地震による引抜き力に対して固定金具に生じる応力度が所定の応力 度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないものとする。ただし、所定の応力度以内に あることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震による引抜き力に対 して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する 確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料につ いては、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定 める値による。						
		設計用水平震度(K _H) ※1.0 設計用鉛直震度(K _V) ※0.5						
		家具名称		設置場所		備考		
		・						
		・						
		・						
		・軽量鉄骨壁下地等への補強(・図示 ・) ※収納物の散乱防止措置(ラッチ機構、ロック機構等)を講ずる ・						